

第5回評価委員会の議論をふまえた評価結果（案）の変更事項

資料2 - 3

		変更前	変更後
全 体	p 9 (第4項)	学士課程教育の質保証の観点からみると、シラバスに記載すべき情報が不十分である。たとえば、すでに平成21年度には全国の35.8%の大学が「具体的な準備学修内容」を記載しているように、授業外での学生の学修時間の確保のための指導事項が必要である。また、シラバスのなかには、授業計画が8回の科目や12回の科目がある。	学士課程教育の質保証の観点からみると、シラバスに記載すべき情報に関して、「具体的な準備学修内容」など授業外での学生の学修時間の確保のための指導事項を明記するほか、「授業計画」について15回を確保することなどが必要である。
	p 9 (第6項)	ただし、新しい体制を作った時の人的保証など過重負担にならないよう常に検証する必要がある。	なお、新たな事業を実施する際には、教職員等の過度な負担にならないよう留意する必要がある。
	p 9 (第8項)	論文不正の再発防止については、学部・研究科在籍中から、アカデミック・インテグリティ（学問的倫理基準）に関する教育を行うよう、全学的に教育体制を整備することが期待される。	論文不正の再発防止については、学部生、大学院生に対しても、各学部・研究科の特性に応じてアカデミック・インテグリティ（学問的倫理基準）に関する教育を行うことが期待される。
教 育	p 13 受験機会の拡大に向けた入学試験制度の見直し	受験生の動向を踏まえて継続的に一般入試や推薦入試の見直しに取り組んでいることは評価できる。しかし、その取り組みは受験機会を拡充することだけに注力されている。昨年度評価でも指摘したように、入学試験の結果をどう総括し自己評価しているのか、明確な基準の下に表明する努力を進められたい。	受験生の動向を踏まえて継続的に一般入試や推薦入試の見直し、受験機会の拡充に取り組んでいることは評価できるが、そのことがより多くの優秀な学生を確保するうえでどの程度効果があったのかを検証することが重要である。したがって、昨年度評価でも指摘したように、入学試験の結果をどう総括し自己評価しているのか、明確な基準の下に表明する努力を進められたい。

教育	<p>p14 人文社会学部における現代課題に対応する教育プログラムの一層の展開</p>	<p><u>ESD(Education for Sustainable Development、「持続可能な地域社会と地球社会をつくる教育」)</u>を基軸とした<u>問題解決型学習(フィールドワーク、インターンシップなど)</u>は、知識活用型学力の育成に有用である。ただし、活動偏重の弊害も指摘されているので、知識の体系化・教育課程の構造化や教員間の協働性が必要となる。今後予定される学部再編における実施体制に注目したい。</p>	<p><u>ESD「持続可能な地域社会と地球社会をつくる教育」()</u>を基軸とした<u>問題解決型学習(フィールドワーク、インターンシップなど)</u>は、知識活用型学力の育成に有用である。ただし、活動偏重の弊害も指摘されているので、知識の体系化・教育課程の構造化や教員間の協働性が必要となる。今後予定される学部再編における実施体制に注目したい。</p> <p><u>ESD(Education for Sustainable Development)</u> ... <u>通常「持続可能な開発のための教育」と訳され、環境的持続可能性、経済的持続可能性、社会的持続可能性の3つの要素を対象とする教育と説明されるが、市立大学人文社会学部におけるESDでは、社会的・文化的側面に重点をおき、「持続可能な地域社会と地球社会をつくる教育」として推進する、としている。</u></p>
	<p>p15 看護学研究科における新たな専門看護師教育課程の開設準備</p>	<p><u>平成24年度から精神看護学領域に専門看護師コースの開設を決定したが、看護学研究科が専門看護師養成に主力をおくことの是非を再検討すべきではないか。</u></p>	<p><u>平成24年度から精神看護学領域に専門看護師コースを開設することとし、2名の合格者を得たことは注目される。ただし、精神看護学領域が大学院博士前期課程の8つの研究教育分野のうちの1つであること、すでにクリティカルケア看護領域にも専門看護師コースが置かれていること、したがって、精神看護学領域の専門看護師コース設置は、看護学研究科の大学院教育全体の前進・拡充であると位置づけられることなどをあわせて説明し、広く市民及び学外者の理解を得るための努力を継続していただきたい。</u></p>

研究	p 18 研究者データベースシステムの更新と内容の充実	研究者データベースシステムの更新を実施しているが、看護学部を除くすべての学部において教員が制度上は研究科に所属しているため、研究科名からの検索はできるが、学部名からの検索ができないなど、利用者の使いやすさの向上及び登録内容の充実という観点からは、不十分である。可能な限り早期に対応することが期待される。	研究者データベースシステムの更新を実施し、画面を見やすくするとともに検索機能を改善することで利用者が使いやすく、また研究者が登録内容を更新しやすいものにされていることは評価される。今後は、利用者の使いやすさのさらなる向上及び登録内容のより一層の充実を期待したい。たとえば、看護学部を除くすべての学部において教員が制度上は研究科に所属しているため、研究科名からの検索はできるが、学部名からの検索ができないという現状の改善もその一つである。
財務内容	p 29 各学部同窓会と大学間または各学部同窓会間の連携	大学と同窓会の連携及び各学部同窓会の横の繋ぎの構築については、スピードアップとレベルアップの双方が求められているが、連携の充実のためには卒業生へのきめ細かい情報提供が不可欠である。	大学と同窓会の連携及び各学部同窓会の横の繋ぎの構築については、スピードアップとレベルアップの双方が求められているが、連携の充実のためには、同窓会に対する大学からの一層の情報発信が必要であり、その一環として大学による卒業生へのきめ細かい情報提供にも留意をお願いしたい。
その他の業務運営	p 33 国連環境計画生物多様性条約事務局との連携	国連環境計画生物多様性条約事務局へ1名の学生をインターンシップ派遣し、大きな教育的効果上げたこと、「2011国際森林年 名古屋市立大学市民シンポジウム」の開催により林野庁長官より感謝状を授与されたことは、いずれも重要な成果である。 しかし、これらの活動を推進し、また生物多様性に関する多数の著作を発表するなど、中期目標の2大基本理念の一つである「環境問題の解決への挑戦」において主体的な役割を果たしてきた、国連環境計画生物多様性条約事務局の元職員の教員が平成23年度末をもって退官した事態もあり、今後の市立大学の環境問題への継続的取組への配慮を期待したい。	国連環境計画生物多様性条約事務局へ1名の学生をインターンシップ派遣し、大きな教育的効果上げたこと、「2011国際森林年 名古屋市立大学市民シンポジウム」の開催により林野庁長官より感謝状を授与されたことは、いずれも重要な成果である。今後の市立大学の環境問題への継続的取組への配慮を期待したい。